



前任職七回忌のお勤めの様子（5月21日、順慶寺本堂にて、岡本太氏撮影）

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2026年(令和8年)

6月号

VOL. 392

◆◆ 前任職七回忌 ◆◆

5月21日、順慶寺本堂にて、前任職七回忌が厳修された。法要は親戚、法中、役員のみで執り行い、60名ほどの参加であった。ソーシャルディスタンスなど、様々な制約の中にあつたコロナ禍の法要とは異なり、平常の形式での法要となった。

◇ 目先の快樂に流される私 ◇

6月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』の次の一節です。

「すべきことを行わず

すべきでないことを行い

傲慢にして、怠惰な人には

汚れがます」

（第二九二偈）

に基づく言葉です。

私たちは日々、さまざまに行いを重ねて生きています。善い行いをすれば善い結果を招き、心は晴れやかになります。悪い行いをすれば悪い結果を招き、心は汚れて曇っていきます。これは善因善果・悪因悪果という道理であり、理解しやすいことではありませんが、実際には毎日の暮らしの中で善い行いだけを貫くのは容易ではありません。

「善は急げ」も、同じく『ダンマパダ』に由来するといわれます。これは、心

今月の釈尊の言葉



なすべきことをせず

なすべきからざることをする

傲慢で怠惰な人は

汚れが増す

若院のテーマカット NO.83



に悪が忍び込む前に善いことを行うべきだという意味です。つまり私たちの心は、放っておくと安易で快い方へ流れやすいのです。やるべきだと分かっている後回しにし、目先の快樂に流れてしまう。そうして後になって悔やむのは、私だけではないでしょう。

◇ 人工能に頼る危険 ◇

近年、人工能（AI）は大きく進化した。スマホや家電にも広く取り入れられて、私たちの暮らしに深く入り込んでい



『ダンマパダ』
第292偈より

ます。場合によっては、日常で誤った行いを避けるため、AIの判断を参考にして行動することもあるでしょう。

ここで思い起こされるのが、50年前に大ヒットした横山光輝のマンガ『バビル二世』です。物語では、五千年前に地球へ不時着したバビル一世が、バベルの塔を思わせる巨大コンピュータ「バビルの塔」を築きます。さらに、その塔を三体のしもべ（ロプロス、ポセイドン、ロデム）に守らせました。

そして地球上からバビルの血を引くバビル二世を見いだし、彼はバビルの塔の指令を忠実に実行していきます。しかし、そのたびに宿敵の攻撃や妨害を受

け、物語が展開していきます。

横山光輝氏が50年前に描いた物語は、いま現実味を帯びています。AIが事実に基づかない誤情報（ハルシネーション）を生み出すことや、高度なセキュリティ能力を持つ新型AI「クロード・ミュトス」によって、さまざまなシステムの脆弱性が素早く見つけられ、インフラなどが停止する危険も指摘されています。

こうした問題の背後には、「すべきことをせず、すべきでないことを優先しようとする」私たち人間の姿があります。たとえバビル二世のようにAIに忠実に従うとしても、そこに妨げる力が働くことを忘れてはなりません。

①【横山光輝】

日本の漫画家。兵庫県神戸市須磨区出身。本名：横山 光照。代表作に『鉄人28号』『伊賀の影丸』『仮面の忍者 赤影』『魔法使いサリー』『モットさん』『ビル2世』『国志』など。長年にわたり幅広いジャンルで活躍した。新分野への挑戦にも意欲的であり、番長漫画が流行した当時には、自らも『あばれ天童』を描いている。その単行本の前書きにおいては「新人になったつもりで描いた」とコメントしている。(ウィキペディアより)

②【バビル二世】

『バビル二世』は『週刊少年チャンピオン』（秋田書店）に連載された。超能力者であるバビル二世と、世界征服を企む超能力者のヨミとの死闘を描いたものである。テレビアニメが開始されて人気が高まり、横山は自身の好きな作品と聞かれると、必ず『バビル二世』と答えていた。(ウィキペディアより)



4月から、お寺で写経の会がはじまりました。真宗では、めずらしいことなのでしようか。



じゅんこちゃん、よく気がつきましたね。今年から

順慶寺では、おつとめでとなえる正信偈を、住職が一ページずつお話ししています。そして、その日にお話ししたページを、みんなで写経することになりました。写経をするのは、正信偈の言葉を一文字ずつ、ていねいに見つめてほしいからです。小さいころから聞い

てきた正信偈でも、「どんな意味なんだろう」と思う人はたくさんいます。でも、分かったつもりになると、大事な言葉を見すごしてしまうこともあります。そこで今年から、学びを深めるために、みんなで写経にも取り組むことにしました。

写経をすると、姿勢がよくなった、気持ちよくなった、静まるといわれます。禅の教えでは、それが修行の一つと考えられています。禅宗などで般若心経の写経がよく行われるのは、そのためです。

でも、真宗では、まず教えをよく聞くことを大事にしています。だから、禅宗のように、写経を修行の一つとはあまり考えません。そのため、正信偈を写経することも、あまり多くありません。

お寺とともに

「声」



「あら、まだヨッコラショは早いわよ」と何度か言われ、私は無意識のうちにいつも「ヨイショ！」

と声に出していることに、最近気づきました。少し恥ずかしいのですが、「ヨイショ」という掛け声がないと力が出ないのです。

この4月と5月は、蓮師会や老院七回忌が続き、「ヨイショ、ヨイショ」の連続でした。自分を励ましていくつもりでしたが、それ以上にすごい魔法のような音があることにも気づきました。それは、お寺に来られる皆さんの「ワイワイ」という声です。一人ではつらい作業も、その「ワイワイ」に包まれると頑張れます。

そもそも「声」は「聲」に由来し、聞くというより浴びるものだと思います。だからこそ、人は和み、癒やされ、安らぎを得るのでしよう。自分の「ヨイショ」という掛け声も、皆さんの「ワイワイ」も、あるいは子どもたちの声や小鳥のさえずりも、みな同じように力をくれるのだと思います。

今日一日、そんな「声」という音を浴びながら元気に過ごしたい——そう思わせてくれた、この不思議な気づきに感謝しています。

若院の成長日記

Growth Diary

《第七四回 太鼓》

4月から「太鼓の会」が発足し、私も練習に参加させていただいております。太鼓はただ叩くだけのようには見えませんが、実際には単純なものではなく、思うような音を出すことができません。先生にお手本として叩いていただくと、腹の底まで響く

ような迫力ある音に圧倒されます。經典にも太鼓は楽器の一つとして登場し、仏が仏法を説くさまを太鼓の音に喩えています。

思わず振り返って耳を傾けてしまうほどの力強い音を聞くと、この喩えもなるほどと思わされます。

前任職七回忌を迎える

さる5月21日、前任職・池浦良裕が亡くなって六年となる今年、七回忌法要を勤めました。親戚法中・役員ならびに親族のみで執り行われた法要となりました。

葬儀一周忌、三回忌はいずれもウィズコロナの方針のもと、ソーシャルディスタンス等、様々な制約を課されたものでのお勤めでしたが、このたびの七回忌はそうした制限もなく、平常

通りのお勤めを行うことができました。前任職が亡くなってから六年の間、私たちの生活様式も大きく変わり、あらためて激動の年月であったことを感じさせられます。当時は先の見えない不安のなかで、人と人の距離を保ちながら生活を営む日々でありましたが、こうして多くの方々とともにお勤めできることのありがたさを、改めて

深く感じる機会ともなりました。当日は時折折雨のぱらつく空模様ではありましたが、親戚・法中・役員を合わせて約六十名のご参集をいただき、予定通り午前十一時よりお参りが始まりました。読経中本堂にて、今回は特例として両親の法名に囲まれる形で南余間に掛けられていた前任職の法名に向かい、生前の苦勞や人柄を偲びながら、皆様にお焼香をしていただきました。その後、皆さんで正信偈をお勤め

前任職七回忌点描



前任職法名軸



お手伝いして下さった皆さん



庫裏でのお齋



本堂での焼香

多くの方が前任職の七回忌を大切に感じてくださるのを見るにつけ、前任職の遺徳を感じずにはいられません。ご多忙のなかご参集くださいました法中方や役員の皆様、また、法中やお抹茶の接待のお手伝いをお引き受けくださいましたお勝手会の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

5月度護国寺会物故者(敬称略)

釋尼惠壽

5月1日寂 佐藤壽見子(83)

豊明市 佐藤佳代子様の母

随珠院釋尼妙榮

5月2日寂 神谷榮(101)

大久屋前川組 神谷悦司様の母

精思院釋修進

5月6日寂 清水進(79)

大府市 清水哲也様の父

釋成範

5月17日寂 神谷美範(49)

市場下組 藤川真紀様の弟

成泉院釋尼妙叶

5月18日寂 池田カナエ(96)

知立市 池田勝則様の母

釋國祥

5月24日寂 塚本國博(85)

名古屋市 塚本明伸様の父



ハナシヨウブ・アマリス優雅に咲く

山の端組の鈴木市成さんから、順慶寺に立派なハナシヨウブとアマリスをいただきました。ちょうど見頃になるような時期にご寄進いただいた鈴木さんにこころより感謝いたします。



編集部短信

◆住職による真宗講座始、写経が始まる II さる5月10日、真宗講座において、正信偈の写経が始まりました。先月はガイドンスだけであったが、今月から筆を手にとつての写経。皆さん真剣な面持ちで取り組まれた。

◆竹藪整備 II さる5月15日、責任役員の相木国男氏所有の竹藪の整備が総代OB会を中心に行われた。今回は下草

刈りが中心で、草刈り機を用いての作業となった。
刈りが中心で、草刈り機を用いての作業となった。

編集雑記

前任職の七回忌を勤め終え、今はひとまず安堵しています。三回忌までとは異なり、この四年間をしっかりと歩んできたかを前任職から問われるような法要であったように感じています。(住)

6月を迎える前にこの暑さ。この先の夏が思いやられます。(若)



6月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	月	寺カフェ(9:00~、順慶寺南落間他) お楽しみ会(14:00~、順慶寺本堂)	
2	火	護寺会バス旅行：楊谷寺ほか	
3	水		
4	木		木-1
5	金		
6	土		
7	日		
8	月		
9	火	同朋教室(13:30~16:00、順慶寺本堂)	
10	水		
11	木		木-2
12	金		
13	土		
14	日	真宗講座(14:00~、順慶寺本堂)	
15	月	助音講(16:00~、順慶寺玄関)	

16	火		
17	水	ゆるふわ体操(10:00~、順慶寺本堂)	
18	木		木-3
19	金		
20	土	順慶寺子ども会(9:00~、順慶寺本堂)	
21	日		
22	月		
23	火		
24	水		
25	木		木-4
26	金		
27	土		
28	日	宗祖聖人御命日(7:00~、順慶寺本堂)	
29	月		
30	火		

6月行事内容 詳細

護寺会バス旅行

6月2日(火)

午前8時 JA 富士松支店

令和8年度も順慶寺バス旅行を開催いたします。「京都・楊谷寺を巡る豊かな新緑と癒やしの旅」と題しましたように、京都の楊谷寺や地ビール醸造蔵の伏水蔵を尋ねます。集合はJA 富士松支店、午前8時。時間前でも揃い次第出発する予定です。

二十一組同朋教室

6月9日(火)

午後1時30分 順慶寺本堂

講師 三重県弘法寺住職 伊東恵深氏

テーマ「正信偈」に学ぶ

岡崎教区二十一組による、同朋教室が5月に引き続き、6月にも開催されます。伊東恵深氏が担当されます。テーマは「正信偈」です。真宗門徒に親しまれるお聖教ですが、聞き慣れているゆえ、意味を味わわず読んでしまうこともあるのではないのでしょうか。その願いを、ともにたずねてまいりましょう。参加費は一千円。申込は順慶寺まで。

おしらせ

●護寺会費のお集めについて

5月より護寺会費の集金が始まっております。年番のある組につきましては、年番の方が護寺会費を集めに伺いますが、それ以外の護寺会員の皆様には、コンビニ振替(または郵便振替)にて納入をお願いしております。なお、コンビニ振替は6月末日を過ぎますとお取り扱いができなくなりますので、お間違えのないようお願いいたします。

●本堂使用料について(再掲)

4月の護寺会総会の決議を経て、本堂使用料が定められました。護寺会員は五千円、非会員は一万円となります。4月19日を以て、葬儀や法事で本堂を利用する際、お花・ろうそく・光熱費代を護寺会協力金として護寺会におさめていただくこととなります。ご理解とご協力のほどをよろしく願います。

なお、4月18日・19日の総会以前に本堂の使用を予約されていた方に対しては、可決以前の規則が適応されますので、本堂使用料は無料となります。

じゅんこのときめき歳時記



涼し

もうすぐ梅雨になりますね。去年は雨の少ない乾いた梅雨でしたが、今年はどうでしょうか。

この季節になると必ず頭に浮かぶのがこの一句。「五月雨を 集めてはやし 最上川」。松尾芭蕉の『奥の細道』の有名な一句です。子供のころNHK教育テレビの「日本語であそぼ」でよく聞いたので耳に残っています。

しかしこの一句、芭蕉が初めて詠んだとき少しだけ違っていたのはご存知でしたか？

山形県の大石田を訪れた芭蕉は次のように詠みました。「五月雨を 集めて涼し 最上川」。どうやら、この

年の東北・北陸が異様に暑かったため最上川の川風を受けて「涼し」と思わず詠んだようです。

異常に暑い夏が続きます。私たちも芭蕉と同じように、思わず「涼し」と口ずさむことなりそうですね。

五月雨を 集めてはやし
最上川
松尾芭蕉

